



神舞の美、極めり。

第47回美都町神楽競演大会

今年度も、美都地域の秋の風物詩である「美都町神楽競演大会」が、市内外からの多数の来場者により行われました。多くの準備にお力を尽くされました美濃商工会青年部の方に、開催への取組と当日の様子についてお寄せいただきました。

11月10日（日）、ふれあいホールもと多目的ホールにおいて美都町神楽競演大会が盛大に開催されました。

島根県西部に伝わる「石見神楽」は、今昔より人々に継承され、延々と営まれています。その土地の風土や歴史、気質と密接な関係があり、多様な芸能として地域に根づいた文化です。その長い歴史の中で、舞い手は神職から農民へ、六調子から八調子へ、劇本位から舞本位の構成へと変革を遂げ、石見の人々の性格や気性に適合しながら発展し、生活の一部に融合されてきました。

美濃商工会青年部を中心とした美都町神楽競演大会実行委員会では、こうした地域伝統芸能でもある石見神楽の更なる継承と発展を図るとともに、情報発信による地域振興を目的とし、昭和53年から毎年開催しています。

【今年度の演目】

- 特別出演
塩 祓 (三谷神楽社中)
- 競演
天 神 (石見神楽上吉田保存会)
- 天の岩戸 (西村神楽社中)
- 壇ノ浦 (出羽神楽団)
- 東大和 (丸茂神楽社中)
- 人 倫 (有福神楽保持者会)
- 石 神 (松原神楽社中)
- 特別出演
東国賊従平定〜大鍬金剛の継承〜 (大森神楽団)



●競技大会

「競演大会」という名が示す通り、本大会は演技を採点する大会であり、「舞」「楽」「詩」「衣装」「演技時間」の5項目を基準に、審査員が採点します。

●ポイント

「神楽が正しく継承されていること」
「舞と楽が一体となっていること」
「見る者へ感動を与えていること」
なども重要なポイントとなります。



松原神楽社中 「石神」

●来場者

地元市内、島根県内はもちろん、関西や九州、なかには東京や北海道からお越しのお客様もいらっしゃいました。

神楽という伝統文化が、日本全国それぞれの土地に根つき愛されているのだという事を改めて感じた一日でした。

当日は、400人の方にご来場頂き、時代を超越した幻想的な世界に引き込まれました。



松原神楽社中 「石神」

●競演結果

2団体による特別出演と6団体によって競われた今年の大会は、いずれ劣らぬ素晴らしい演技でした。厳正な審査の結果、「東大和」を演じた丸茂神楽社中が優勝されました。準優勝は「石神」を演じた松原神楽社中で、個人に贈られる審査員特別賞は、丸茂神楽社中の演者お二人が受賞されました。



丸茂神楽社中 「東大和」



秦記念館 菊花展

11月1日から5日までの期間、秦佐八郎博士を偲んで、秦記念館で菊花展を開催しました。秦佐八郎博士は、医学に関する研究に多忙の中、趣味として終生花づくりをされており、その中で菊を育てられていました。

開催期間中は、地域の方々が育てられた菊の展示と共に、都茂小学校の児童が歌う市民劇「秦佐八郎物語」の「笑顔のために」を流しました。最終日にはユニット名「エバーグリーン」によるミニコンサートも開催しました。



エバーグリーンによるミニコンサートの様子



展示会場での来場者の様子



秦記念館に展示された菊

菊花展の初日は、展示した菊もつぼみが目立つ状態でしたが、日が経つにつれ花の数が増え、秋晴れとなった最終日には、来場者の目を楽しませてくれるほどの、花の数となりました。都茂小学校の児童の歌声が流れる中、菊を観賞しながら、心地よい時間を過ごされていました。

中には、東京の八王子からキャンピングカーでの旅行中に立ち寄られたご夫婦もおられ、菊を眺めてひとときの休息時間を過ごされていました。

最終日に開催したミニコンサートでは、「エバーグリーン」によるギターとリコーダーの演奏があり、菊で彩られた舞台で演奏される曲を聞き、体でリズムを取る方や、手拍子をするなど、楽しく素敵な時間が過ぎていきました。

昔とは違い近年猛暑となる中、立派な菊を育てることは難しくなっており、来年の開催に多少の不安はありますが、来場者の方々が菊を観賞され、笑顔になれるよう、関係者一同頑張っていきたいと思っています。

〔出展者の皆様〕

東仙道保育所園児（すみれ、たんぽぽ、ゆり）
都茂保育所園児（すみれ、たんぽぽ、ゆり）
都茂小学校児童（3年生・4年生）
美都中学校生徒（1年生）
葛籠自治会の皆さん
地域の菊づくりの皆さん
東仙道公民館職員
都茂公民館職員
二川公民館職員



展示会場の様子

中山間地域を守る(株)美都森林の挑戦

株式会社美都森林(土佐則幸代表取締役)は、「農業が廃ると地域が廃る」を理念に、耕作放棄地を活用した田んぼのオーナー制度の運営や、柚子やそば、こんにゃくの栽培を行っています。

●田んぼのオーナー制度

田んぼのオーナー制度は、広島県の方に田植えから稲刈りまでを通じて美都町二川地区のPRと地域に還元が出来るイベントとして平成30年から始めました。途中コロナ禍により開催できない年もありましたが、6年目の今年は県内外から9組もの参加者がありました。6月に田植えを行い、9月の稲刈りでは刈り取った稲を一束ずつハデに掛け、天日干しで乾燥させた後、おいしく仕上がったお米をオーナーに届けています。

完全無農薬の合鴨農法による米作りは、「やって楽しい」「食べて美味しい」と評判になっており、来年も同程度の規模で行う予定とのことなので、ぜひ皆さんも参加してみたいかがでしょうか。詳しくは、道の駅サンエイト美都ホームページをご覧ください。



はじめて裸足で田んぼに入ったよ！



1束ずつ刈取った稲をてねてハデ干しに

●柚子の取組

柚子は、4.1haの耕作放棄地で3300本を無農薬栽培しています。令和4年に有機JAS認定を取得し、環境に配慮した農業を実践しています。柚子の生産だけでなく収穫体験も行っています。令和3年には、地域外の人々に美都町の魅力を知ってもらおうと、初めて収穫体験を実施し、今では遠く北海道や千葉県から飛行機で訪れるリピーターもいるほどの人気企画に成長しました。



大人の参加者のお手伝いもバッチリです！



このほかにも、県立益田養護学校の園芸班の生徒が毎年、収穫作業を行い、社会で働く力を養う一環としています。また、自動車教習所「Mランド益田校」は、教習生に都会では味わえない収穫体験を提供しています。令和6年にはアメリカ人観光客も訪れ、国際的な交流も進んでいます。

林業だけでなく農業を通じた、中山間地域を守る挑戦が続いています。

★田んぼのオーナー制度にご興味のある方は



道の駅サンエイト美都ホーム
ページをご覧ください。

★ゆず収穫体験にご興味のある方は



しまね関係人口マッチング・
交流サイト「しまっち」を
ご活用ください。



地域外から多くの方が収穫のお手伝いに参加されました！

【お問い合わせ先】株式会社 美都森林 ☎ 0856-52-2755

ふるさと会員への登録や、当情報誌についてのご意見やご要望、または、紹介したいモノや人、グループなどがございましたらぜひお知らせください。
なお、ふるさと会員の登録は無料です。お問合せ等は左記電話番号またはメールアドレスchiiki-m@city.masuda.lg.jpまで。 担当：美都地域総務課